

ふたあい

第21号

平成23.6.15

題字・川口遊魚さん

特集 東日本大震災 ～広がる支援の輪～ (P3～7)



▲ 5月8日 酒田・鶴岡合同支援作業後 (宮城県石巻市)



▲ 5月14日 酒田北高生、側溝のヘドロ上げ作業 (宮城県多賀城市)

【発行】

社会福祉法人 酒田市社会福祉協議会

〒998-0864 酒田市新橋二丁目1番地の19
酒田市地域福祉センター内

☎23-5765 FAX24-6299

E-mail: shakyo@sakata-shakyo.or.jp

ホームページ: <http://www.sakata-shakyo.or.jp/>



酒田市社協

検索

八幡支部 ☎64-3765・FAX61-1214

松山支部 ☎62-2843・FAX62-2841

平田支部 ☎52-2260・FAX52-3727



赤い羽根共同募金の配分により発行しています。

社会福祉協議会は皆さまからの会費をもとに活動している民間団体です。福祉事業の充実に取組みます。

さかたししゃかいふくしきょうぎかい

酒田市社協

基本目標

- ①ふれあいと思いやりを大切にするまち
- ②安全で安心して暮らせるまち
- ③地域福祉サービスの充実したまち
- ④人材やボランティアを育てるまち

介護保険サービス

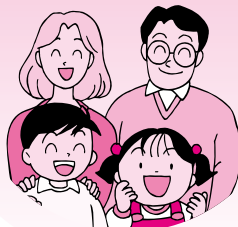
- ・居宅介護支援（ケアプラン作成）
- ・訪問介護（ホームヘルプサービス）
- ・通所介護（デイサービスいすみ・松山）
- ・地域包括支援センターにいた

理事及び監事

任 期 平成23年6月1日～平成25年5月31日

役職名	氏 名	備 考
理 事	加藤勝記	学 識 経 験 者
理 事	森谷功喜	住 民 自 治 組 織
理 事	佐藤 恒	福 祉 団 体
理 事	石川信一	住 民 自 治 組 織
理 事	石黒誠一	住 民 自 治 組 織
理 事	阿部直善	社会福祉協議会事務局長
理 事	大石 薫	酒田市健康福祉部長
理 事	高橋陽一	民生児童委員協議会
理 事	佐藤弥市	老人クラブ連合会
理 事	小松 満	母子福祉ねむの木会
理 事	戸田 登	学 識 経 験 者
理 事	鈴木富雄	民生児童委員協議会
理 事	阿部重敏	住 民 自 治 組 織
理 事	桐澤 聡	酒 田 市 福 祉 課 長
監 事	加藤 曠	住 民 自 治 組 織
監 事	佐藤安重	住 民 自 治 組 織
監 事	後藤作太	住 民 自 治 組 織

平成23年度 事業計画



地域福祉事業

●新・草の根事業…

住みなれた地域で安心して暮らすために

- ・地域での見守り・ふれあい老人給食・あんしん相談
- ・いきいきサロン・介護予防講座など

●赤い羽根共同募金

募金のとりまとめと団体への配分

●生活福祉資金

所得の低いご家庭や、失業でお困りの方への貸付

●福祉サービス利用援助事業

認知症などによりお金の管理でお困りの方

●赤十字活動への協力

火災見舞い金・災害義援金のとりまとめ

●安心生活創造事業

訪問して情報提供、課題を関係機関へつなぐ

●心配ごと相談所の開設

月2回第1・3火曜日 9:30～15:00

●第2期酒田市地域福祉活動計画の推進

全学区・地区社協に計画（H23～27年度）の考え方の周知説明会の実施

●災害時ボランティアセンター設置

平成23年度予算総額 421,044,000円

収 入	(単位：千円)
会 費 収 入	16,410 (3.9%)
寄 附 金 収 入	1,000 (0.2%)
補 助 金 収 入	90,915 (21.6%)
委 託 金 収 入	40,390 (9.6%)
事 業 収 入	3,343 (0.8%)
貸付事業等収入	5,050 (1.2%)
共同募金配分金収入	13,892 (3.3%)
介護保険収入	202,359 (48.1%)
自立支援費等収入	13,992 (3.3%)
利 用 料 収 入	580 (0.1%)
雑 収 入	386 (0.1%)
受取利息配当金収入	1,112 (0.3%)
経理区分間繰入金収入	25,532 (6.1%)
積立預金取崩収入	6,083 (1.4%)
計	421,044

支 出	(単位：千円)
人 件 費 支 出	261,129 (62.0%)
事 務 費 支 出	25,518 (6.1%)
事 業 費 支 出	55,895 (13.3%)
貸付事業等支出	5,000 (1.2%)
共同募金配分金事業費	13,477 (3.2%)
助 成 金 支 出	15,588 (3.7%)
負 担 金 支 出	1,687 (0.4%)
経理区分間繰入金支出	25,532 (6.1%)
固定資産取得支出	5,433 (1.3%)
積立預金積立支出	1,060 (0.2%)
そ の 他 の 支 出	9,768 (2.3%)
予 備 費	100 (0.0%)
当期末支払資金残高	857 (0.2%)
計	421,044



石巻市吉浜地区 (4月16日)



気仙沼市上田中地区 (5月21日)



石巻市八幡町地区 (5月8日)


特集
〔東日本大震災〕

広がる支援の

輪

被災地での ボランティア活動

酒田市社会福祉協議会

会長 加藤 勝記

東日本大震災で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。あまりにも大きな被害に心を痛める毎日です。

当市は、酒田大火のとき全国の皆様に物心両面で大変お世話になりました。被災者の方々に少しでもお返ししたいという思いでいっぱいです。

今、市民の力をお借りし、被災地でのボランティア活動を続けています。ボランティアの皆さんの熱い想いと行動が、被災地の皆さんを少しでも勇気づけてくれることを願っています。



被災地支援に 参加して

東北公益文科大学

二年 森 桂太

四月十六日、石巻市吉浜地区にボランティアで行きました。実際被災地を見ると予想をはるかに超えており、壊滅状態で言葉が出ないほどでした。震災からひと月もたつのに、警察や自衛隊が、行方不明者の捜索をしていました。

この地区は、この日初めてボランティアが入ったところで、五十戸余りの世帯で、残ったのは十数戸ということでした。数時間で日帰りの予定でしたが、がれきの撤去や、使えなくなった家具の運び出しをするなかなだ思ったことは、もっと長期的にとどまり、少しでも復興に協力したい、ということでした。しかし、今の自分にはできることが限られており、役に立てていない、と無力感を感じることもありました。

「引っくり返ってたグラランドピアノを起こして」と頼まれたとき、自分たちの力ではとても

できないと思ったのですが、別のグループと力を合わせて起こすことができました。そのピアノの前で家族が写真を撮り、それから外へ運び出しました。ピアノに対する家族の想いに応えたこと、涙を流しながら感謝の言葉をいただいたことがとてもうれしかったです。

この活動を通し、復興には多くの人の協力が長期的に必要なことと実感しました。私達学生も長期にわたる支援を行っていきたいと思います。

石巻市

ボランティア活動

トヨタカローラ山形(株)山居町店

社員有志一同

震災直後より、何ができるかを社員一同で考え、店舗内の節電・節水、洗車時の募金、救援物資調達など本場に微々たるものですが、みんなで取り組んでおります。その中で少しでも現地の方々のお役にたちたいと、酒田市社会福祉協議会にボランティア登録し、社員有志で四月三十日に石巻市八幡町に行つてまいりました。

津波の大きさに唖然

朝五時に出発、天気もよく、初めはちょっとしたドライブ気分でした。しかし、現地が近くなるにつれて波打った道路や津波の跡が見えてくると、自然と口数が少なくなり、目の前の現実に唖然としてしまいました。そこから海は全然見えないし、防風林もずっと遠いのになぜここまでと、今回の津波の大きさを思い知らされました。

近所の人たちと一緒に

現地では、地元のリーダーの方の指示により、車が入れない狭い小路のがれきや家具を撤去する仕事をしました。最初は私たちだけでしたが、近所の方が一人二人とさりげなく加わってくれました。私たちはボランティアですので当たり前ですが、近所の方々が自ら加わってくれたことに対して、日頃忘れかけていた何かを思い出させてくれました。次から次へとがれきを運び出し、お昼頃にはだいぶ綺麗にすることができました。全て片付いた時には、疲れより仕事とは違う達成感があり、"やつた"という顔をしていました。

みんなの力のあわせよう

現地の方々にとっては生活も激変した中ですが、人は元氣さえあれば何でもできるという事を改めて感じました。一人では何もできないけれども、一人一人の力が集まればどんな事でも成し遂げられると実感しました。今後、節電・節水など継続してできる事はもちろんですが、自動車販売という仕事を通して皆さんに夢と希望を与えられれば、そして東北を元気づけられればと思います。ありがとうございます。



▲前列左が民生委員の蟻坂さん

現地の人の声! ①

●宮城県石巻市八幡町(はちまんちよう)民生委員蟻坂さん

私達の住む八幡町地区は概ね①津波による全倒壊が二十五%以上②床上浸水五十%以上③残りが津波被害なしで、③を除くほとんどが全壊もしくは大規模半壊地区に指定されました。

発災当初の混乱から抜け出すのに一週間十日の時間を要しましたが、その後住民自らが復旧に立ち上がりました。一か月を過ぎた頃から全国のボランティアの皆さんにお越しいただき復旧のスピードも加速しましたが、特に八幡町地区は酒田・鶴岡をはじめとした、庄内の皆さんのご支援があったため他の地区に先んじて、がれきや家屋内の泥出し、被災家具類の搬出などをほぼ終えることができました。感謝申し上げます。

しかし、北上川や海にさらに近い地区では、七十日を過ぎた今でもがれきがうず高く積みまれ、ライフラインが回復せず、不自由な生活を強いられているところが多くあります。仮設住宅の建設も道半ばですし、一階鴨居付近まで水に浸かりながら我が家に住みたいと家財食器等の洗浄などで疲れ切っている住民も多くいます。

このように、皆さんのご支援に甘えなければならぬ状況がまだまだあります。

どうかこれからも息の長いご支援をお願いいたします。

※他の参加者の声は、ホームページに載せていますのでご覧ください。

商店街の力でみんな元気に
南三陸町の商店街に支援

酒田市中通り商店街前会長

佐藤英夫さん、幸美さんご夫妻



「必要なときに、本当に必要なものを的確に直接届けたい」と話す佐藤英夫さん。

四年前に、全国十一か所の商店街でつくったネットワークを活かし、宮城県南三陸町の被災者に震災一週間後の三月十八日から九回物資を運びました。

遠くは鹿児島、岡山など、全国各地からお金や物資を送ってもらい、酒田から必要な分だけ届ける。次回は何か要るかを聞き、地割れでデコボコの道、余震でさらに壊れた道をルートを変えては運びました。

市内の企業の協力が後押しに

「中学校の卒業式で使うからスリッパ二百足ほしい」と言われ、酒田旅館業組合に協力してもらったり、「感染症の予防に殺菌剤が大量にほしい」と言

われ、急きょ特約店の協力をいただき調達、翌日早朝に現地まで運んだり。「汁物が食べたい」と現地の声を聞いて、うどん・そばを三月二十七日千二百食、四月三日には八百食準備し、炊出しもおこないました。

買物で生まれる交流を大切に

「今は、物資も行きたってきて、次の段階にきているようです」と幸美さん。「物を提供してもらう暮らしから、自らほしいものを選ぶ暮らしへ。ふだんの生活に戻る手助けをした」と語ります。

南三陸に「福」を興そう！

四月二十九・三十日の二日間、被災された商店街ににぎわいをとりもどそうと、「福興市」が開かれ、酒田の商店が特別価格で提供してくれた切花や食品が持ち込まれました。

久しぶりに商売をした南三陸の商店主が、生き生きと客との会話を楽しんでいる様子を見て、「商売の楽しさを思いだして、また店を出すという気持ちになってもらいたい」とお二人は話しています。「福興市」は毎月開かれる予定です。

現地の人の声！②

宮城県南三陸町

「平成の森」避難所にて

●自治会長及川さん

事務局長畠山さん

地震の夜、津波で助かってもらえただが濡れて寒さで亡くなった人が多かった。次の朝、五センチも雪が降ったからね。

この避難所は、三日間物資が来なくて、ダンゴみたいなおにぎりを一日一個食べて過ごした。これじゃみんな飢え死にだ、と、広場にSOSを書いたら、米軍のヘリが降りてくれた。

「助かった！」と思ったね。

「急患か？」と聞くので「水、食べ物、ハングリー」と伝えたから「オーケー」と飛び立って、まもなく温かいご飯とお茶を持ってきてくれた。おいしかったなあ！ありがたかった！

酒田の避難所でも交流の輪が…

酒田市親子スポーツ会館にて

●大竹さん（福島県角田市）

じっとしていると退屈だから、

いろんな物作って楽しんでいます。折紙とか編物とかね。酒田でのアパートも決まったけど、角田の老人会の友達も待っていて、電話をもらおうと泣けてきて。私、老人会の会長してるから。総会に行ってきたの。皆さんよくしてくれてここは最高の避難所だね。

●蛭原さん（福島県南相馬市）

明日福島に戻って、娘の家で孫達と一緒に暮らすの。今も毎日地震があつて心配だし。隣の人が見てくれて助かった。

●太田さん（福島県南相馬市）

一生に一度だね、こんなこと。知らない土地に来て、親戚もいたからよくしてもらって感謝でいっぱいだけど、やっぱり自分の家に帰りたい。親子って名前のとおりいい避難所だよ。自分でできることは、手伝いたいからモップがけとかして



▲ 左から大竹さん、太田さん、蛭原さん

**被災地に夢物資を運ぶ
だがしや楽校慰問隊が
やってくる！**

だがしや楽校普及員 さとう 仁

(華酒田ねっと主宰)

だがしや楽校では、今年2月に住友生命の未来を築く子育てプロジェクトにおきまして、最高賞となります未来大賞と厚生労働大臣賞をいただいたご縁で、文部科学省の働き掛けにより日本玩具協会より三十トンの新品のおもちゃが三月末に届きました。早速、県内の避難所に足を運び、四月上旬からは石巻、気仙沼、南三陸へとおもちゃを積み込み避難所巡りを開始しました。



チャレンジゲームで元気に！

はじめの頃は、圧倒的な自然の猛威と甚大な被害の爪痕がむき出しのままの砂塵舞う被災地に、どうしても心が沈鬱になり、

重苦しい笑顔で子どもたちに、おもちゃをただ配るしかできませんでした。ところが、もらったものをその場であけて、散らかしてしまいう状況に何度か遭遇し、これではいけないと、チャレンジゲームをさせて自分で勝ち取らせるやり方に変更しました。負けるのが怖くて元気にチャレンジできない子には、冷えきった手を包み込み、「失敗しても何回でもチャレンジ出来るから大丈夫！もう一回やってみよう！」と励まします。二回目、三回目になると子どもらしい元気が避難所にこだまします。



大人の心もやわらかく

心なしか大人の表情も柔らかくなり、場の空気が一変してきます。子どもの元気、笑顔こそ社会の太陽なのだと確信しました。後片付けをしていると世話人のかたがそっと近づいてき

ます。「大人に気を使って我慢してるんです。この子たちの元気な声を聞いたのは久しぶりです。」

最近では、ゲームの審判を現地の高学年や中学生に任せます。そうすることで、昔は地域によくあったガキ大将を中心とした関係を残して行くようにしています。



支えて縁を結ぶ活動

天皇陛下が慰問にいらした歌津中学校では、一時間半も諦めずに剣玉の穴にチャレンジした小三の男の子が制限時間一分前に成功し、喜びのあまり泣き崩れてしまいました。この子なら今後なにがあっても大丈夫だと確信しました。ただ玩具を届けるだけでなく、人間の輪、ご縁を育てるこの「支縁活動」を使命感をもって今後も継続したいと思っています。

市内でもがんばりました



▲ 酒田市体育館での物資仕分けのボランティア



▲ 酒田市倫理法人会の街頭募金

立ち上がれ東北！ 酒田から元氣発信！

(社)酒田青年会議所第四十五代理事長

阿部 敦

(社)酒田青年会議所は、昭和四十二年設立以来四十五年間、酒田・飽海地区で英知と勇氣と情熱をもって明るく豊かな社会を築くため運動してきました。現在は八十二名の会員がこの北庄内の発展と皆様の幸せを願い果敢に挑戦しております。

被災地へいち早く！

しかし、三月十一日、東日本大震災が発生し、この地域のみならず、被災された方々や地域への支援活動も必要だと考え、活動してきました。震災直後、被災地での炊き出し、支援物資の調達・輸送、献血活動を行い、現在も炊き出し、物資の調達・輸送を続けています。また、酒田への避難者を支援するため、募金や物資のお願いをさせて頂き、市民の皆様から一六十万円ほどの温かい支援金と多くの物資を頂きました。この支援金は酒田市と遊佐町を通じ、この地区の学校へ編入された子供たちへお届けいたしました。物資に

関しても随時お配りさせて頂いております。

全国組織をいかして

青年会議所は全国に七百四あり、各地で支援の輪が広がっております。これもひとえに各地域にお住まいの皆様のお力があつてのことと考えております。本当にありがとうございます。私たちが住んでいる地域の発展と同時に、今後は長期的支援を想定し、酒田市社会福祉協議会との連携も視野に入れ、市民の皆様への支援のお気持ちと共に運動していきたいと思っております。「立ち上がれ東北！酒田から元氣発信!!」を掲げ、出来ることから地に足をつけ運動していきたいと思っております。今後とも私たち(社)酒田青年会議所の運動にご理解、ご協力の程何卒宜しくお願い申し上げます。



▲ 物資輸送もおおぜいで

中山間地の 活性化にむけて

NPO法人ひらた里山の会

理事長 佐藤 忠智

酒田市以東の中山間地は、高齢化や農林業の衰退による生活環境の低下傾向にあります。地域住民・行政・企業・大学・他団体などと協働で中山間地の特性を生かした創造的再生事業により、明るく住みよい地域づくりに貢献することを目的として平成二十一年四月に設立されました。現在会員は主に酒田市内の様々な職種の三十九名が活動しております。

里山資源を掘り起こそう

里山をフィールドに誰でもが安心・安全に楽しめるように、マップ作成・案内看板や道標の設置・登山道整備など、子ども山里教室・里山トレッキングを通して人と自然を結びイベントを開催し、交流人口の増を図ります。



案内看板設置「十二滝他二ヶ所」



▲ 里山再生保全活動として荒廃林・間伐・枝打ち・下刈り〔北俣ほたる庵周辺〕草刈り応援



▲ 大震災被災地石巻へ清掃ボランティア八名緊急出動



▲ 「もったいない」から始めようフリママーケットひらた

毎月第二日曜日午前十時～午後二時ひらたタウンセンター
出店料／五百円・申込／当日会場
問合せ／NPO法人ひらた里山の会
電話／52-3046

学区・地区社会福祉協議会の活動から

今、地域の課題は

自ら発信して
元気と長生きを

泉学区社会福祉協議会

会長 梁瀬 吉弘

私達の地域は、高齢者の多い地区と、近年移住してこられた若い人たちの多い地区から構成されており、したがって、当社会福祉協議会は、泉コミュニティ振興会と連携を密に図りながら、諸課題解決に努力しています。

基本的には、酒田市社会福祉協議会と相談しながら、役員会



や総会・合同会議を通して年度の運営方針や地域の状況把握、対応の検討、周知の方法を協議しています。

さりげなく機会をとらえ

見守りネットワークについては、自治会活動で、日常生活でのさりげない隣近所の相互見守りや、いきいきサロン活動で、あるいは福祉協力員や民生児童委員、老人クラブ活動などのさまざまな声かけで異常発見に努め、適切に対応するよう協議を進めています。

献立づくりも自分たちで

ふれあい給食事業は、婦人部会と福祉協力員・民生児童委員・自治会長の方々の理解と、大変なご支援で順調に実施し、献立作りも自ら研修を重ねる努力は、関係者に大変喜ばれています。

疾病予防・健康増進をめざす介護予防講座については、行政関係課と連携しながら、地域の

婦人部や食改・老人クラブ等の協力で実施し、好評を得ています。

子どもたちもいっしょに

さらに小学校で、地域の先生として昔遊びやグラウンドゴルフを児童と行うなど交流に努め、積極的に健康づくりに励んでいます。ひとり一人が行動することが大事と思っています。

地域の育児力の
向上をめざして

本楯地区社会福祉協議会

会長 茂木 敏彌

南遊佐、上田、本楯の三地区は、統合前の鳥海中学校区で、第十民生児童委員協議会です。

酒田市が、地域育児力の向上を図る事業の一環として展開している子育て支援事業に、地域の有志の皆さんに呼びかけ、ちょうかい子育て応援団「おてつなごう」を立ち上げて、三年目になります。

子育てはみんなの力で

発足当時は不安もありましたが、三地区のコミュニティ振興会、子育て支援のノウハウを有する関係機関および有志の皆さん



んの心温まる協力のおかげで、年六回の例会を行っています。今年の第一回例会を四月二十三日に南遊佐地区で開催し、大変好評でした。また、昨年度からは地区社協の事業に取り入れていただきました。

安心して暮らせる地域に

子育て支援事業は長続きしないと云われます。課題も多くありますが、さまざまな形で子どもや、子育て中の親とふれあい、豊かな人生経験を披露するなど、地域に欠かせない役割を持った方々からも、お互いさまの関係で協力していただき、この事業が地域の枠、世代の枠を超えて交流が広がり、今まで以上に安心して子育てができる地域になれると願っています。